

ない。總督府の調査報告はこの意味での最も貴重すべき記録である。而して之等の諸調査に基く一貫した概説的敘述を求めるならば、その學殖と共に、最も夙く研究に當られ、之等の諸調査に従事され、古蹟圖譜の編纂を行つてゐられる關野博士の嚮の講義を殆んど唯一の手頼りとすべきは當然なことに相違ない。近來の朝鮮美術史に對する一般の要望に鑑み、朝鮮史學會が同講義を更に單行本として發刊せんとしたのは寔に機宜を得たものであつた。而して博士はこれを機として新たに幾多の圖版とまた爾後の發見にかゝる諸資料とを以てその補正を試みられたのである。その中には古蹟圖譜にも載せてない珍らしき寫眞も見られるのであつて、この大きな補正の勞は恐らく新たに稿を起すの勞に劣らざるものがあつたであらう。

本書の内容については革めて紹介の要はないと思ふ。本書はもとより未だ研究途上にある朝鮮美術史に加へられた決算ではなくて、從來の諸業績の一つの概観である。博士の意圖も亦恐らく將來の朝鮮美術史がこの骨組の上に益その研究を進めて行くことを望むにあつたことと推察せられる。唯敘述の體裁について一言を述べるならば、その特色は簡明な點である。能ふ限りの事實の敘述に止めて一貫せる美術の推移を示し得てゐる點である。主要なる材料をすべて各項毎に表を以て示されてゐるのもその一例であつて、この方法は直ちに移してすべての美術史の場合に用ゐることはできないにしても、採つて範とすべき整理法たるは云ふまでもない。若し古蹟圖譜等を得易からざる一般の讀者の爲に更に圖版の多きを望むが如きは單に望蜀の感に過ぎないのである。(渡邊)

四六倍版、本文二八三頁、圖版コロタイプ及び三色刷二七圖、挿圖、網目一〇五圖、昭和七年九月十五日 朝鮮史學會發行、定價七圓

美術研究所時報

○十一月二十六日美術懇話會例會を開き、中村不折氏蒐集の龜甲文、獸骨文、周漢の銅器、錢、瓦、封泥及び墓券、銅器の拓本など、支那古代に於ける書の

實例と沿革を示す資料の展觀を行ひ、中村氏が陳列品に就ての講話をせられた。之等の資料の主なるものは近く寫眞版として講話に添へ、小冊子の形で美術懇話會より發行の豫定である。

○美術懇話會十二月例會は期日を早めて十二月十日に開いた。今回は、元興寺塔址から出土した玉類、銅錢等、及び鞍馬寺の經塚出土品、佛像、懸佛、寶塔、鏡、銅錢等一切を借用陳列し、荻野仲三郎氏及び田澤金吾氏が講話をせられた。鞍馬寺の遺品に就ては近く本誌に紹介する豫定。

なほ美術研究所では、翌十一日此陳列を一般研究者の觀覽に供した。

寄贈新刊圖書

朝鮮美術史 關野貞著

著者

蒙古襲來繪詞

東洋文庫

Jean Capart, Le Temple des Musées.

Musées Royaux d'Art et d'Histoire, Bruxelles

Hubert Philippart, Le "Zeus" d'Arcemision.

Fondation Archéologique de l'Université de Bruxelles.

Hubert Philippart, Collection de

Céramiques grecques en Italie.

"

Fondation Archéologique de l'Université

de Bruxelles. (Musée Léon Leclerc)

"

寶雲四

帝國工藝 六〇一一

滿蒙 一三ノ一二

思想 一二七

東京美術學校々友會月報 三二ノ六

Bulletin of the Metropolitan Museum of Art. Vol. XXVII, No. 11.

Parnassus. Vol. IV No. 6

Bulletin de l'Ecole Française d'Extrême-Orient. Tome XXI No. 1-2

The Museums Journal. (University Museum, Philadelphia) Vol. XXIII. No. 2